

## 広島県中小企業団体中央会 2020年11月分情報連絡一覧表

※本調査は12月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する12月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

### ●食料品

#### 中国醤油醸造協同組合

11月の出荷量は前月比0.4%増加、前年同月比10.3%減少となり、売上高は前月比2.8%増加、前年同月比5.9%減少となった。

#### 広島県東部菓子商工業協同組合

今月の売上は、前年同月比3%減少となった。全体的に少しずつではあるが回復の兆しが出てきそうな予感であるが、一進一退の状態が続いている。

多くの業種で萎縮が見られるため、消費の伸びは重たいように思われる。

(繊維・同製品)

### ●繊維工業

#### 広島県織物構造改善工業組合

今月の景況感は、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大し、営業活動が出来ないため悪化している。年明けも厳しい状況となることが予想される。

(木材・木製品)

### ●木材・木製品

#### 広島県木材協同組合連合会

<全国>

- ・令和2年10月の全国の住宅着工戸数は70,685戸で前年同月比8.3%減少
- ・季節調整済年率換算値では802千戸(前月比1.6%減少)
- ・利用関係別では、持家は23,013戸で前年同月比6.1%減少、貸家は26,043戸で前年同月比11.5%減少
- ・分譲住宅は20,706戸で前年同月比9.6%減少
- ・木造住宅着工は41,424戸で前年同月比9.4%減少
- ・住宅着工動向は前年同月比16ヶ月連続の減少で、リーマンショック後に次ぐ低水準が続いている。

<広島>

- ・10月の着工戸数は1,614戸で前年同月比20.1%減少
- ・内訳としては、持家は392戸で前年比25.8%減少、貸家は690戸で前年比26.0%減少、分譲は532戸で前年比4.8%減少と県全体の住宅着工の動向は再び減少となった。
- ・地域別では、広島市が843戸で前年比24.9%減少、東広島市では142戸で18.9%減少、呉市では88戸で56.9%減少の一方、福山市は313戸で8.7%増加、尾道市は75戸で47.1%増加と地域間・業者間で景況感に差が見られる。
- ・堅調なプレカットの稼働に合わせて構造材等の非住宅需要は活況で、杉・桧の単価回復に伴って出材増加し、バイオマス燃料用チップも安定取引が続いている。
- ・全体的に荷動きは高水準で推移し、繁忙感が続いているが、物件見積もりが下降線をたどりつつあり、年明け後の先行き不安を感じる事業が多い。
- ・コロナ感染の第3波への懸念が強まり、先行きが見通しがたい状況にあるが、今後も動向をしっかり注視していく必要がある。

#### ひろしま木材事業協同組合

本格的な冬が到来すると、積雪などにより国産材原木の供給が滞る可能性があることから、今月はそれに備え、各製材所ともに原木在庫の確保に動き、原木価格は上昇した。12月に入っても十分に在庫が確保できている業者は少なく、引き続き原木の供給が追いついていない状況が続いている。

広島県のプレカット業者、住宅メーカーによっても繁閑差はあるものの、11月の仕事量は前月比減少となった。注文住宅は減少しているが、一部建売住宅が多忙であり、ビルダー間でも差が出てきている。

#### 福山木材協同組合

来年の景況感はさらに厳しいことが予想される。

(印刷)

### ●出版・印刷・同関連

#### 広島県印刷工業組合

新型コロナウイルス感染患者が再び増加傾向にある。こういう時こそ原点回帰し、自社の強みに更に磨きをかけ、価値を高める努力をするチャンスだと捉えて前向きに取り組むたい。

(化学・ゴム)

### ●工業用ゴム製品

## 中国ゴム工業協同組合

政府や地方自治体によるGo toキャンペーンや地域クーポン券、各種補助金制度により秋口には日本経済も少し上向いてきた感があったが、11月下旬よりコロナ感染の第3波が起こりつつあり、欧米各国では再びロックダウンを始めとする様々な規制が強化されつつある。日本においても、北海道、大阪を始め、自粛ムードが拡大しつつあり、緊急事態宣言が発令される可能性が大きくなっている。このような状況の中、経済的にも年末から状況が悪化することが予想され、来年春まではさらに落ち込むと思われる。経営的にも攻めより守りに重点を置いた姿勢が求められる。

### ●プラスチック製品製造業

#### 広島県プラスチック工業会

自動車関連では、10月下旬より生産が下がり、次月以降の不透明感が強まっている。新型コロナウイルス感染症の終息時期が見えないことが問題である。

(窯業・土石製品)

### ●窯業・土石製品

#### 広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

R2年11月3,273m<sup>3</sup> (前年比11.01%減少)

R2年10月3,838m<sup>3</sup>

R1年11月3,678m<sup>3</sup>

(鉄鋼・金属製品)

### ●鉄鋼業

#### 軋鉄鋼協同組合連合会

春先からの不況により廃業を検討している事業者が1社ある。また、週2,3日しか稼働していない状況が半年以上続いている事業所もある。業況が改善する見通しが立たない。

(一般機器)

### ●一般機械器具

#### 広島県東部機械金属工業協同組合

国内外の景気低迷による設備投資の減少により、前月比10%減少、前年同月比40%減少となった。

(電気機器)

### ●電気機械器具

#### 広島県東部機械金属工業協同組合 (電気機械器具)

今月は、中国向け受注量が増加しており、前月比5%増加、前年同月比10%減少となった。海外からの受注が回復傾向にあるものの、先行きに不透明感がある。

(輸送用機器)

### ●輸送用機械器具 (自動車)

#### 東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度の高い主要顧客 (マツダ) の業況 (生産台数) に比例している。

・11月の国内自動車販売台数は全需が412千台、前年同月比6.7%増加と2ヶ月連続の前年超え。登録車は同6.0%増加と2ヶ月連続の前年超え、軽自動車も同7.8%増加と2ヶ月連続の前年超え。

マツダ車は同0.3%減少と2ヶ月振りの前年割れ

・アメリカの10月の全需は1,362千台で前年同月比1.3%増加と2ヶ月連続の前年超え。マツダ車も同16.5%増加と2ヶ月連続の前年超え

・欧州の10月の全需は1,354千台で、前年同月比3.2%減少と2ヶ月振りの前年割れ。マツダ車は同32.2%減少と10ヶ月連続の前年割れ

・中国の10月の全需は1,557千台で、前年同月比31.9%減少。マツダ車は同1.0%減少と2ヶ月振りの前年割れ

・上記各地域の状況下、マツダ車の10月の海外販売合計台数は97千台、前年同月比4.9%減少で10ヶ月連続の前年割れ

・マツダの10月の輸出台数は前年比7.0%増加と2ヶ月連続の前年超え

・マツダの10月の国内生産台数は、前年同月比2.8%増加と13ヶ月振りの前年超え

### ●輸送用機械器具 (造船)

#### 中国地区造船協議会

県内2,500総トン以上の令和2年10月の船舶建造許可実績は6隻284,399総トンであった。(前月3隻166,100総トン、前年同月8隻359,090総トン)

なお、内訳は国内船で1隻、輸出船は5隻で全てが貨物船であった。

(一社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化はない。

(卸売業)

### ●卸売業 (総合)

## 協同組合広島総合卸センター

全体としては、景況感に大きな変化はない。

「雑貨」においては、日配・生活必需品関連は横ばいで、巣ごもり、Go toキャンペーンの効果は限定的であり、旅行・外出・娯楽の自粛ムードの影響は依然大きい。

「資材」においては、裾野の広い大企業における自動車・建築関連投資は延期・縮小傾向、少なくとも来年度は新型コロナウイルス感染症拡大の沈静化が見込めない中、多数の中小企業者が来年度の受注減、収益悪化、赤字計上を見込んでいる。

「食品」においては、日配・生鮮等家庭用と外食等業務用で依然明暗が分かれ、飲食小売業者の中でも明暗が分かれている。

「繊維」においては、コロナ禍により売上見通しは販路・チャネルにより異なり、ネット通販は堅調ながら、需要・消費喚起に向けた販売値引きの動きが見られ始めており、動向を注視する動きもある。

コロナ禍での新規開拓は困難であり、収益改善に向けた経費削減も限界である。新規事業の取り組みや、業態・事業のあり方の見直しなどを模索・検討する企業が見られ始めた。

### ●卸売業（電設資材）

#### 広島県電設資材卸業協同組合

全体的には持ち直しの動きが見られるが、住宅市場では着工件数減少による影響が継続している。民間企業の設備投資案件が少しずつ増加し、見積件数も前年比増加となり、期待感はある。

### ●卸売業（家具）

#### リビズ株式会社

1店舗で閉店セール中である。

### ●卸売業（畳・敷物）

#### 広島県藁製品商業協同組合

今月は、い草の植え付けの真っ最中であり、畳表の製織を止めて受付作業で各農家は多忙を極めている。

国産畳表の相場は年末を控えて強めで推移し、中国産表は横ばいで推移している。全体的に、コロナ禍で販売取扱料は前年比20%減少で推移している。活気が戻るにはもう少し時間がかかる模様である。

#### （小売業）

### ●各種商品小売業

#### 協同組合三次ショッピングセンター

一度は落ち着いていた新型コロナウイルス感染症が再び拡大し始め、冬場は業績悪化が予想される。

#### 広島生鮮三品連絡協議会

今月の中央市場の取扱高は、水産部が前年比15%減少、青果部が前年比7%減少と低迷が続いている。

コロナ禍の一時的な特需も終わり、消費者の節約志向が強まるにつれ、巣ごもり需要のまとめ買いを喚起するスーパー各社のチラシ配布により、低価格競争が激化してきた。

Go toキャンペーンの効果で宿泊業向けの販売は回復基調にあるものの、飲食業向けの販売は回復せず、政策効果は限定的である。また、忘年会・新年会のキャンセルが相次ぎ、ますます売上が伸び悩むことが懸念される。

### ●家庭用電気機械器具小売

#### 広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比5.4%増加となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比10.6%増加、冷蔵庫同8.0%増加、洗濯機同2.8%増加、IHクッキングヒーター同9.3%減少、エコキュート同9.5%減少、エアコン同10.7%増加となった。

プチリフォームが盛り上がり、その影響で大型冷蔵庫、大型液晶テレビ、斜めドラムの洗濯機など、高額品が動いている。メーカーの合同展示会がコロナ禍で中止となり、電話、DM等による注文で売上を維持しているが、組合員格差が大きい。

#### （商店街）

### ●商店街（各種商品小売業）

#### 呉本通商店街振興組合

呉市からの補助金を活用して、中央地区の商店街が共同でプレミアム商品券を取り扱うこととなり、11月20、21日の2日間販売したが、両日とも3,400冊あまりが約2時間で完売した。12月1日から換金が始まったが呉本通り商店街のスーパーでは11月20日から10日間で3,400枚の商品券での売上があった。

近隣の郵便局の情報では、当地区でも年賀はがきの売れ行きは年々減少傾向で、郵政からの割り当て枚数も減少しているようである。

#### 広島金座街商店街振興組合

今月は、Go toキャンペーンの効果もあり、日曜祝日の人出は増加したが、夕方以降の人出は減少している。

#### （サービス業）

### ●自動車整備業

#### 広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比12.3%減少、前年比6.2%減少

車検場収入は、前月比9.8%減少、前年比5.1%減少

重量税・登録印紙の売上は、前月比15.4%減少、前年比10.8%減少

## ●広告業

### 広島県広告美術協同組合連合会

稼働はしているが、偏りがあり、未だコロナ禍前の受注量には戻っていない。今後の受注見込みも減少傾向が予想される。

## ●警備業

### 広島県警備業協同組合

再び人員不足になっている。

(建設業)

## ●工事業

### 広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、11月度は前月比24%減少、前年同月比34.7%減少、累計前年比1%増加となった。コロナ禍においても前年比では微増の状態が続いていたが、今月は、大きく下落し、前年比はほぼ横ばいとなった。従来はこれから繁忙期に入る時期ではあるが、組合員からの情報によると、あまり芳しくない。

### 福山地区電気工事業協同組合

今月の工事受付件数は、前月比3.5%減少、前年比5.9%減少となった。

太陽光発電は例年11月が今年度単価での申込み締め切り期限であり、申込みが増える。(年々売電単価が下がっているため)しかし、今年は低単価と不景気感により、施主の購買意欲が低下している。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「新築住宅を踏みとどまる施主」が多い。

(運輸業)

## ●道路貨物運送業

### 中国カーゴ軽運送協同組合

緩やかではあるが、7月～9月はやや景況感が持ち直していた感があったが、現状は横ばいからやや下降気味である。

### 広島輸送ターミナル協同組合

今月は、先月に比べ稼働日が少なく収益が減少した。Go to キャンペーンにより人の移動は多かったが、物流量はあまり変わっていない。

### 松永地区トラック事業協同組合

11月の売上高は、前年同月比減少、前月比微増となった。復路貨物が回復しつつあることが売上増加の要因となっている。働き方改革に向けてドライバーの賃金見直しや職場環境改善のため、荷主に対して運賃値上げを要請したいところではあるが、荷主側も売上が伸びない中、物流コストを削減したいため、より安価な運送会社へ仕事が流れる可能性もあり、今は静観している状態である。

例年、12月は軽油価格が上昇しているため、今後の価格変動を心配している。

## ●水運業

### 全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進んでいると同時に若年船員が育っていないため、船員不足である。

運賃、用船料の改善が見られない。

(その他)

## ●不動産業

### 広島県不動産評価システム協同組合

前月比は11月に一般鑑定業務が増えたため、売上高、収益状況は好転している。資金繰りに変わりはない。

昨年の11月は、固定資産税等公的評価業務が多忙であったため、一般評価を控えていたが、今年は公的評価業務がないこともあり、一般評価業務が増えている。

依然としてコロナ禍の不動産鑑定業界への影響は少ないが、今後もコロナ禍が長引き、企業業績が悪化してくると、金融機関等からの不動産評価の依頼が増えてくるのではないかと推測される。

流川・薬研堀歓楽街の飲食店業界は、年末にかけて依然として客足が遠のいており、厳しい業況が続いている。賃貸飲食店ビルのオーナーの中には、店子に対して家賃減額補助を来年1月～3月も引き続き行うところもある。不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、低金利政策等により戸建て需要は堅調に推移しているが、分譲マンション販売については低調になってきている。